ザンビア北部ベンバ農村における世帯間の経済格差の実態

―ピースワークに着目して―

平成 24 年入学
派遣先国：ザンビア共和国
吉村　友希

キーワード：ザンビア共和国，農村，賃金労働，経済格差，食糧自給

対象とする問題の概要

ザンビア北部に居住するベンバの人びとは，伝統的な焼畑農耕と，1980 年代以降に国家政策によって導入された換金作物のトウモロコシ栽培とを組み合わせながら，農耕を中心に自給を基本とした生活を営んできた。しかし現在，ベンバ農村に居住する村びとのなかには，焼畑農耕を放棄して大規模なトウモロコシ畑のみを開墾し，余剰トウモロコシの販売や，小さな商店の経営をはじめとするさまざまな経済活動を組み合わせることで生計を立てる世帯が存在する。このような世帯は，余剰トウモロコシの販売や活発な商業活動によって，焼畑による自給を基本とした生活をおくる世帯よりも多くの現金を獲得している。これまでの研究で，ベンバ社会では，他者よりも経済的に突出することを避け，差異が平準化される傾向があり，その平準化が人びとの社会規範となっていることが明らかにされてきた。しかし，現在のベンバ農村においては，世帯ごとの経済的な格差が生じつつある。

換金作物のトウモロコシを栽培する畑

研究目的

本研究では，現在のベンバ農村に見られる世帯間の経済的な格差の実態を， 住民間の小規模な雇用労働である「ピースワーク」に着目して明らかにすることを目的とする。住民が従事するピースワークの内容や頻度，得られる報酬の内容について調査するとともに，雇用機会を提供する世帯と雇われる世帯の生業形態の違いや，経済的な状況を明らかにする。そして，雇用者，被雇用者という両方の世帯間の関係性について詳細な調査を実施することで，現在のベンバ農村における経済的な格差の実態を明らかにする。そのうえで，これまで指摘されてきた差異の平準化という社会的機構が，現在のベンバ農村においてどのように作用しているのかについて検討していきたい。

大きなトウモロコシ畑でピースワークに従事する村びと

フィールドワークから得られた知見について

フィールドワークを実施した 12 月から 2 月にかけては，トウモロコシ畑の耕起や除草作業など、ピースワークが最も多い時期である。仕事の詳細としては，トウモロコシ畑の畝立てや播種，化学肥料の施肥や除草作業などがあり，支払われる報酬は現金だけでなく，主食作物のトウモロコシや，魚や卵などの副食品や酒など多岐にわたる。トウモロコシの栽培にあたってピースワークを依頼するのは，自給に必要な量以上のトウモロコシを毎年生産し，その販売でまとまった現金を獲得している世帯であった。一方で，ピースワークを請け負うのは，従来のように焼畑農耕を軸に自給を基本とした生活を営む世帯や，独立して間もない青年世帯が中心であった。彼らは自給に必要な量か，それを下回る量の食糧しか生産しておらず，学費や日用品の購入に必要な現金の不足や，自給食糧が底をついたことによる食糧不足に悩まされている。トウモロコシ畑の農繁期は，多くの世帯にとって作物が不足する端境期にあたるため，この時期のピースワークは生計の維持において非常に重要であり，ピースワーク従事者の多くは，報酬としてうけとる現金や作物で生計を成り立たせている。大きなトウモロコシ畑を経営したい世帯にとって，余剰トウモロコシの生産と販売を継続するためには，周辺の住民の労働力が不可欠である。ピ

ースワークを提供する世帯と，ピースワークに従事する世帯との間の経済的な格差は大きく，従来のように世帯間の差異が平準化されているとは言いづらい状況になってきている。しかし，双方がそれぞれの生計の維持において，お互いの存在を必要としており，ピースワークを介して両者が相互に依存するような関係が結ばれている。大きなトウモロコシ畑を開墾する世帯の余剰トウモロコシが，ピースワークを介して，食糧不足に悩む世帯へと流れることで，村や地域としての食糧自給が達成されている。

ピースワークを終え、報酬としてトウモロコシをもらって帰る女性たち

今後の展開・反省点

今後の展開として，経済的な格差の拡大が懸念される。ピースワークに従事する世帯は，自分自身のトウモロコシ畑を開墾する余裕がないため，毎年端境期になると食糧不足に悩み，ピースワークに従事しなければ生計を維持できないという状況に陥っている。一方で，ピースワークを依頼する世帯は，より大きなトウモロコシ畑を開墾し，より多くの余剰トウモロコシを生産するようになっていくため，両者の経済的な差異が大きくなる。ピースワークを介して，食糧はある程度分配されるが，収入の差は縮まらず，富の偏在化が進んでいる。現在のこのようなベンバ農村の状況において，従来指摘されてきたような，差異の平準化という社会的機構，あるいは人びとがもってきた社会規範がどのように作用しているのかについて，今後注意ぶかく検討していきたい。その際、その背景となる妬みや恨みという人びとの示す感情や社会規範について、今後は注意して調査をしていきたい。